花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略　本文新旧対照表　【資料４】

旧	新
基本目標①　①-ア～②-ア　省略 ②-イ．観光コンテンツの創出と活用を図る 　市内ロケ※候補地の情報収集及びデータベース化、ロケハン※等への支援を通じたフィルムコミッション※機能の充実によりロケを誘致し、新たな観光コンテンツの創出を図るとともに、地域観光資源の付加価値向上を図る。また、観光コンテンツの保全と魅力アップのため、まつりやイベントの開催を支援するほか、特産品コンクール等で入選した事業者と連携し、特産品のPRや花巻のお土産開発等の支援を行う。 　さらに、市内文化施設との連携により、花巻の先人を紹介する企画展の開催を通じて、文化のまち花巻の理解と関心を高めていくほか、スポーツによる誘客促進のため、スポーツ大会やスポーツ合宿等の誘致に向けた活動を展開する。 　これらの観光コンテンツを広く周知するための情報発信機会として、観光キャンペーンや広告宣伝を実施するとともに、観光客が自らの嗜好に合った観光コースを作成することができる観光プラン作成システムを開発、設置し周遊を促す。 ①－③地域資源を活用した魅力ある農林業の推進 【現状と課題】 　本市の農家数は減少傾向にあり、平成22（2010）年には6,772戸と平成12（2000）年に比べて20.7%の減少となっている。そのうち第2種兼業農家が最も多く、平成12（2000）年からの減少率は38.3%となっている。一方、専業農家と自給的農家は増加傾向にある。 　農業従事者が減少し、高齢化（65歳以上が約6割）が進む中、農業従事者、特に担い手農業者の確保や農業所得の向上と経営の安定のため、担い手の育成や農地集積への支援、国施策等への対応、生産拡大につながる取り組	基本目標①　①-ア～②-ア　省略 ②-イ．観光コンテンツの創出と活用を図る 　市内ロケ※候補地の情報収集及びデータベース化、ロケハン※等への支援を通じたフィルムコミッション※機能の充実によりロケを誘致し、新たな観光コンテンツの創出を図るとともに、地域観光資源の付加価値向上を図る。また、観光コンテンツの保全と魅力アップのため、まつりやイベントの開催を支援するほか、特産品コンクール等で入選した事業者と連携し、特産品のPRや花巻のお土産開発等の支援を行う。 　さらに、市内文化施設との連携により、花巻の先人を紹介する企画展の開催を通じて、文化のまち花巻の理解と関心を高めていくほか、スポーツによる誘客促進のため、スポーツ大会やスポーツ合宿等の誘致に向けた活動を展開する。 　これらの観光コンテンツを広く周知するための情報発信機会として、観光キャンペーンや広告宣伝を実施するとともに、観光客が自らの嗜好に合った観光コースを作成することができる観光プラン作成システムへの情報提供を行い、周遊を促す。 ①－③地域資源を活用した魅力ある農林業の推進 【現状と課題】 　本市の農家数は減少傾向にあり、平成22（2010）年には6,772戸と平成12（2000）年に比べて20.7%の減少となっている。そのうち第2種兼業農家が最も多く、平成12（2000）年からの減少率は38.3%となっている。一方、専業農家と自給的農家は増加傾向にある。 　農業従事者が減少し、高齢化（65歳以上が約6割）が進む中、農業従事者、特に担い手農業者の確保や農業所得の向上と経営の安定のため、担い手の育成や農地集積への支援、国施策等への対応、生産拡大につながる取り組

旧	新
みを展開することや、6 次産業化の推進、りんごやぶどうなどの地域特産物の活用推進に加えて、生産基盤となる農地や農村環境の維持・保全が必要である。 　本市の林野面積は 58,746ha と岩手県林野面積全体の 5.1%を占めている（2010 年世界農林業センサス）。木材需要は合板材や燃料用材などの需要により回復傾向にあるものの、依然として価格の低迷などにより、地元産木材が思うように活用されていない状況にある。また、経営意欲の低迷、作業道等の整備や施業の集約化の遅れなどから生産性が低く、林業経営は依然として厳しい状況に置かれている。 　また、若手林業就業者が着実に増えているものの、森林所有者の高齢化や後継者不足から、手入れの行き届かない森林が増えており、森林保全活動への市民の関心も低い状況にあることから、水源かん養※や地球温暖化対策など森林が有する様々な機能について、さらに市民への周知が必要である。 　林地残材や松くい虫被害木など、今まで利用されていなかった森林資源を活用したバイオマスエネルギー※関連企業が市内で操業を予定していることから、今後未利用森林資源の有効活用、さらには地域産業への波及効果が期待されている。 **③-ア～ウ　省略** **③-エ．生産意欲を高める産業の付加価値化を進める** 　農業所得の向上と経営の安定を図るため、6 次産業化戦略を策定し、農業者や集落ぐるみによる生産・加工・販売の一体化や、農業と第 2 次、第 3 次産業の融合など、農業・農村の 6 次産業化を推進する。 　併せて、農業の生産性を高めるため、認定農業者や集落営農組織等の経営の複合化・多角化、基盤強化、産地拡大、6 次産業化を推進する生産施設等の整備を支援するほか、農林水産物や人身に対する被害を防止するため、鳥獣被害対策を実施する。	みを展開することや、6 次産業化の推進、りんごやぶどうなどの地域特産物の活用推進に加えて、生産基盤となる農地や農村環境の維持・保全が必要である。 　本市の林野面積は 58,746ha と岩手県林野面積全体の 5.1%を占めている（2010 年世界農林業センサス）。木材需要は合板材や燃料用材などの需要により回復傾向にあるものの、依然として価格の低迷などにより、地元産木材が思うように活用されていない状況にある。また、経営意欲の低迷、作業道等の整備や施業の集約化の遅れなどから生産性が低く、林業経営は依然として厳しい状況に置かれている。 　また、若手林業就業者が着実に増えているものの、森林所有者の高齢化や後継者不足から、手入れの行き届かない森林が増えており、森林保全活動への市民の関心も低い状況にあることから、水源かん養※や地球温暖化対策など森林が有する様々な機能について、さらに市民への周知が必要である。 　林地残材や松くい虫被害木など、今まで利用されていなかった森林資源を活用したバイオマスエネルギー※関連企業の操業に伴い、今後未利用森林資源の有効活用、さらには地域産業への波及効果が期待されている。 **③-ア～ウ　省略** **③-エ．生産意欲を高める産業の付加価値化を進める** 　農業所得の向上と経営の安定を図るため、6 次産業化戦略を策定し、農業者や集落ぐるみによる生産・加工・販売の一体化や、農業と第 2 次、第 3 次産業の融合など、農業・農村の 6 次産業化を推進する。 　併せて、農業の生産性を高めるため、認定農業者や集落営農組織等の経営の複合化・多角化、基盤強化、産地拡大、6 次産業化を推進する生産施設等の整備を支援するほか、農林水産物や人身に対する被害を防止するため、鳥獣被害対策を実施する。

花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略　新旧対照表

旧	新
④-ア　省略 基本目標②　①-ア～イ　省略 ②企業の拠点強化とUIJターン者の就労支援 【現状と課題】 　本市の有効求人倍率は1倍を超える高い状態が続いている。これは、市が行っている企業誘致等の取り組みにより、一定の雇用の確保につながったものと考えられるが、その多くが労働集約型でパートタイムでの雇用が中心となっており、若者や移住定住者の雇用につながっていない。 　また、UIJターン者が本市で就業を希望する場合、これまでも就職説明会の開催や県のUターンセンター、ハローワークでの求人情報の提供を行ってきたが、思うような成果に結びついていない。 　これらの状況から、地域で生まれ育った人材が当地域内で就業し続けるとともに、UIJターン者が安心して就業し定住につながるよう、正規雇用の拡大につながる企業誘致や、地域企業の経営拡大による雇用の場の拡大に向けた対策を積極的に進める必要がある。 　併せて、求職と求人のマッチングは移住者の定住化にもつながるものであり、企業や事業者とのさらなる連携強化が必要である。 ②-ア．企業の拠点化を支援する 　地域で生まれ育った人材を他地域に流出させることなく、また、首都圏、中部圏、近畿圏からの転入を促進するため、本社機能移転を含めた企業誘致活動の強化や、地域企	また、本市が平成28年11月に「花巻クラフトワイン・シードル特区」に認定され、市内で生産された果実を原料とした酒類の小規模製造が可能となったことから、果実酒製造の新規参入者に対して支援を行う。 ④-ア　省略 基本目標②　①-ア～イ　省略 ②企業の拠点強化とUIJターン者の就労支援 【現状と課題】 　本市の有効求人倍率は1倍を超える高い状態が続いている。これは、市が行っている企業誘致等の取り組みにより、一定の雇用の確保につながったものと考えられるが、その多くが労働集約型でパートタイムでの雇用が中心となっており、若者や移住定住者の雇用につながっていない。 　また、UIJターン者が本市で就業を希望する場合、これまでも就職説明会の開催や県のUターンセンター、ハローワークでの求人情報の提供を行ってきたが、思うような成果に結びついていない。 　これらの状況から、地域で生まれ育った人材が当地域内で就業し続けるとともに、UIJターン者が安心して就業し定住につながるよう、正規雇用の拡大につながる企業誘致や、その受け皿となる賃貸工場や産業団地の整備に加え、地域企業の経営拡大による雇用の場の拡大に向けた対策を積極的に進める必要がある。 　併せて、求職と求人のマッチングは移住者の定住化にもつながるものであり、企業や事業者とのさらなる連携強化が必要である。 ②-ア．企業の拠点化を支援する 　地域で生まれ育った人材を他地域に流出させることなく、また、首都圏、中部圏、近畿圏からの転入を促進するため、本社機能移転を含めた企業誘致活動の強化や、その受け皿となる賃貸工場や産業団地の整備に加え、地域企

花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略　新旧対照表

旧	新
業の拠点強化に向けた調査・検討を行う。 **②-イ　省略** **③-ア．若者の職業観を育成する** 　市内の小中学校及び高校において、地元就職・地元定着の意識を育てるキャリア教育を展開できるよう市が職業人講師人材バンクを設置し、切れ目のない地元での就業に対する意識醸成を行う。また、首都圏と花巻市で生活した場合の違いなどを学ぶための場を準備する。 　大学との連携については、文部科学省で進めている COC+※事業（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）に対応し、県内の大学に加え地元企業・NPO・民間団体等との協働により、地域産業を自ら生み出す人材など地域を担う人材育成を推進し、雇用創出、若者定着に向けた取り組みを行う。 　また、市奨学金を活用し地元大学を卒業した学生が、市内に居住した場合に返還金の一部を免除することにより、若者の地元定着を促進する。 **③-イ　省略** **基本目標③　①-ア　省略** **①-イ．妊娠・出産シーンを安心して迎えられる環境をつくる** 　安心して子どもを産み育てられる環境を整えるとともに、妊娠・出産を通して切れ目のない支援を行い、出生数の増加を図る。そのため、助産師外来や院内助産など＿出産の場の確保、妊娠前相談の実施や特定不妊治療費の助成、特定妊婦※への支援など＿妊娠前の段階から、出産後の母子保健の各事業を充実する＿とともに、産前産後の家事・育児援助サービスの提供＿＿を実施する。	業の拠点強化に向けた調査・検討を行う。 **②-イ　省略** **③-ア．若者の職業観を育成する** 　市内の小中学校及び高校において、地元就職・地元定着の意識を育てるキャリア教育を展開＿＿し、切れ目のない地元での就業に対する意識醸成を行う。また、首都圏と花巻市で生活した場合の違いなどを学ぶための場を準備する。 　大学との連携については、文部科学省で進めている COC+※事業（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）に対応し、県内の大学に加え地元企業・NPO・民間団体等との協働により、地域産業を自ら生み出す人材など地域を担う人材育成を推進し、雇用創出、若者定着に向けた取り組みを行う。 　また、市奨学金を活用し地元大学を卒業した学生が、市内に居住した場合に返還金の一部を免除することにより、若者の地元定着を促進する。 **③-イ　省略** **基本目標③　①-ア　省略** **①　-イ．妊娠・出産シーンを安心して迎えられる環境をつくる** 　安心して子どもを産み育てられる環境を整えるとともに、妊娠・出産を通して切れ目のない支援を行い、出生数の増加を図る。そのため、助産師外来や院内助産などの出産の場の確保、妊娠前相談の実施や特定不妊治療費の助成、特定妊婦※への支援などの妊娠前の段階から、出産後の母子保健の各事業を充実させるとともに、産前産後の家事・育児援助サービスの提供や産後ケア・産前産後サポート事業を実施する。

花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略　新旧対照表

旧	新
③-ア．子どもの健康を守り、地域ぐるみの子育てを支援する 　次代を担う子どもたちが健やかに育つために、子どもたちの健康を守る予防接種費用の助成を行うほか、多子世帯の保育料軽減などにより、子育て世代の経済負担の軽減を図る。また、市内の NPO 法人等の子育て支援団体の活用や、地域で子育て家庭を支援するネットワークづくりを推進することにより、家庭の子育てを支援する。 　さらに、父母その他の保護者だけが子育てを担うのではなく、子育てに関わっている全ての者が自分の問題としてとらえ、地域社会全体で子育てを支援していく体制が必要であることから、ファミリーサポートセンターの利用促進や、放課後や長期休暇等に家庭で養育を受けられない児童のための地域と連携した体験学習や学童クラブとの環境整備を行う。	③-ア．子どもの健康を守り、地域ぐるみの子育てを支援する 　次代を担う子どもたちが健やかに育つために、子どもたちの健康を守る予防接種費用の助成を行うほか、医療費の助成や多子世帯の保育料軽減などにより、子育て世代の経済負担の軽減を図る。また、市内の NPO 法人等の子育て支援団体の活用や、地域で子育て家庭を支援するネットワークづくりを推進することにより、家庭の子育てを支援する。 　さらに、父母その他の保護者だけが子育てを担うのではなく、子育てに関わっている全ての者が自分の問題としてとらえ、地域社会全体で子育てを支援していく体制が必要であることから、ファミリーサポートセンターの利用促進や、地域と連携した学童クラブ等の環境整備を行う。
③-イ　省略	③-イ　省略
基本目標④ まちなか再生と、利便性の高い快適な暮らしを実現する生活基盤の整備 【現状と課題】 　市民の主な買い物先は市内が 89.2%と高い割合を占めているが、居住する地域内での購買率について花巻地域は高いものの他の地域は低く、市内での買い物に満足している市民の割合は全体では 56.4%にとどまっている（平成 27 年度まちづくり市民アンケート）。また、学校や商業施設が郊外に移転、立地して居住の範囲も拡散した影響などで、空き店舗が増加し人口も減少しているまちなかの再生が急務である。 　このため、医療、福祉、商業など市民の生活に必要な都市機能のまちなかにおける整備に積極的に取り組むとともに、都市構造の「コンパクト＋ネットワーク」化を促し、まちの賑わいと機能を維持、再生することが必要となっている。	基本目標④ まちなか再生と、利便性の高い快適な暮らしを実現する生活基盤の整備 【現状と課題】 　市民の主な買い物先は市内が 89.2%と高い割合を占めているが、居住する地域内での購買率について花巻地域は高いものの他の地域は低く、市内での買い物に満足している市民の割合は全体では 56.4%にとどまっている（平成 27 年度まちづくり市民アンケート）。また、学校や商業施設が郊外に移転、立地して居住の範囲も拡散した影響などで、空き店舗が増加し人口も減少しているまちなかの再生が急務である。 　このため、医療、福祉、商業など市民の生活に必要な都市機能のまちなかにおける整備に積極的に取り組むとともに、都市構造の「コンパクト＋ネットワーク」化を促し、まちの賑わいと機能を維持、再生することが必要となっている。また、公共・生活・商業などのサービスを享受できる地域の拠点としての環境を整えるためにも、地域を結ぶ交通環境を地域住民とともに確保、検討する必要がある。

旧	新
一方、道路環境の整備・維持修繕に対する市民の要望は現在も少なくなく、道路・橋梁の老朽化に対する再整備なども必要とされており、道路の整備状況に満足している市民の割合も 62.5%（平成 27 年度まちづくり市民アンケート）となっている。また、下水道環境では、市全域における公共下水道、農業集落排水及び浄化槽整備の 3 事業による水洗化人口割合は 76%（平成 26 年度末）で、下水道の整備状況に満足している市民の割合も 68.0%と十分とは言えない状況となっている（平成 27 年度まちづくり市民アンケート）。 このため、地域再生計画なども活用して、既存のインフラ整備事業を確実に遂行していくことが必要である。 **①-ア　持続可能な賑わいのある都市構造を再構築する** 市街地の魅力を取り戻すため、未利用施設や跡地の再利用を推進し、市街地に必要な都市機能の充実を図るとともに、すでに基盤が整った既成市街地の優位性を活かして定住人口を誘導し、効率的で利便性の高いコンパクトなまちづくりを推進する。そのため、まちづくりの新たな担い手の参画も得て、民間の力と市民との協働をまちづくりに活かす「民間主体・公民連携」の手法も導入しながら、中心市街地の魅力と価値を向上させるための立地適正化やリノベーションまちづくり※を推進するとともに、賑わいの創出に取り組む。併せて、活用し得る遊休不動産の有効利用を図っていく。 また、世代間交流集合住宅の整備や子育て世帯の定住化を促進するとともに、行政サービスを持続的に提供していくため、市有財産や公共施設の適正かつ合理的な管理に努める。	一方、道路環境の整備・維持修繕に対する市民の要望は現在も少なくなく、道路・橋梁の老朽化に対する再整備なども必要とされており、道路の整備状況に満足している市民の割合も 62.5%（平成 27 年度まちづくり市民アンケート）となっている。また、下水道環境では、市全域における公共下水道、農業集落排水及び浄化槽整備の 3 事業による水洗化人口割合は 76%（平成 26 年度末）で、下水道の整備状況に満足している市民の割合も 68.0%と十分とは言えない状況となっている（平成 27 年度まちづくり市民アンケート）。 このため、地域再生計画なども活用して、既存のインフラ整備事業を確実に遂行していくことが必要である。 **①-ア　持続可能な賑わいのある都市構造を再構築する** 市街地の魅力を取り戻すため、未利用施設や跡地の再利用を推進し、市街地に必要な都市機能の充実を図るとともに、すでに基盤が整った既成市街地の優位性を活かして定住人口を誘導し、効率的で利便性が高くコンパクトで持続可能なまちづくりを推進する。そのため、まちづくりの新たな担い手の参画も得て、民間の力と市民との協働をまちづくりに活かす「民間主体・公民連携」の手法も導入しながら、中心市街地の魅力と価値を向上させせるための立地適正化やリノベーションまちづくり※を推進し、賑わいの創出や医療・福祉など安心して快適に暮らすために必要な都市機能の整備に取り組む。併せて、活用し得る遊休不動産の有効利用を図っていく。 また、世代間交流集合住宅の整備や子育て世帯の定住化を促進するとともに、行政サービスを持続的に提供していくため、市有財産や公共施設の適正かつ合理的な管理に努める。

花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略　新旧対照表

旧	新
①-イ．生活基盤施設の計画的な再整備と維持管理を推進する 　住民の安全・安心・衛生的で文化的生活を望むニーズに応えるとともに、美しい自然と共生するまちづくりを推進する。 　そのため、安全な道路網の構築や快適な住環境の創出により、生活基盤施設の充実を図る。 　また、道路利用者の利便性や地域の連携強化を図るため、道の駅設置に向けた検討を行う。 ②地域で学び、育ち、自主的に進めるまちづくり 【現状と課題】 　市民一人ひとりのライフスタイルが多種多様化しているなかで、市民は心の豊かさや健康で生きがいのある生活を求めており、自己の充実を図る上で、生涯学習に対する関心が高まり、学習活動に対するニーズが多様化している。近年は、地域における生涯学習が地域づくりや地域の人材育成につながる意味合いから、地域が主体となって行う生涯学習活動が広がりを見せている。 　また、本市では平成 19 年 4 月に地域の自主的なまちづくりを推進するための基本となる区域として市内に 27 のコミュニティ地区を定め、全ての地区に地域づくりの拠点となる振興センターを整備し、地域住民の自治活動組織であるコミュニティ会議と一体になって、それぞれの地域の様々な課題解決に向けて特色ある地域づくりを進めており、この 1 年間で何らかの地域づくり活動に参加している市民の割合も 82.6%と高くなっている（平成 27 年度まちづくり市民アンケート）。 　しかし、就業形態の多様化が市民の生活形態にも影響し、地域住民全体で活動することに苦慮している傾向にあることから、地域住民による自主的なまちづくりを推進するためには、地域課題の解決を図るためのファシリテーター※的な人材を確保・育成する環境の整備が必要である。 　また、公共・生活・商業などのサービスを享受できる地域の拠点として	①-イ．生活基盤施設の計画的な再整備と維持管理を推進する 　住民の安全・安心・衛生的で文化的生活を望むニーズに応えるとともに、美しい自然と共生するまちづくりを推進する。 　そのため、安全な道路網の構築や快適な住環境の創出により、生活基盤施設の充実を図るとともに、交通ネットワークの確保や検討を進める。 　また、道路利用者の利便性や地域の連携強化を図るため、道の駅設置に向けた検討を行う。 ②地域で学び、育ち、自主的に進めるまちづくり 【現状と課題】 　市民一人ひとりのライフスタイルが多種多様化しているなかで、市民は心の豊かさや健康で生きがいのある生活を求めており、自己の充実を図る上で、生涯学習に対する関心が高まり、学習活動に対するニーズが多様化している。近年は、地域における生涯学習が地域づくりや地域の人材育成につながる意味合いから、地域が主体となって行う生涯学習活動が広がりを見せている。 　また、本市では平成 19 年 4 月に地域の自主的なまちづくりを推進するための基本となる区域として市内に 27 のコミュニティ地区を定め、全ての地区に地域づくりの拠点となる振興センターを整備し、地域住民の自治活動組織であるコミュニティ会議と一体になって、それぞれの地域の様々な課題解決に向けて特色ある地域づくりを進めており、この 1 年間で何らかの地域づくり活動に参加している市民の割合も 82.6%と高くなっている（平成 27 年度まちづくり市民アンケート）。 　しかし、就業形態の多様化が市民の生活形態にも影響し、地域住民全体で活動することに苦慮している傾向にあることから、地域住民による自主的なまちづくりを推進するためには、地域課題の解決を図るためのファシリテーター※的な人材を確保・育成する環境の整備が必要である。

花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略　新旧対照表

旧	新
の環境を整えるためにも地域を結ぶ交通環境を地域住民とともに確保、検討し、活力ある取り組みを実施する必要がある。 ②ーア　省略 ②−イ．多くの市民が自主的にまちづくりを進める環境をつくる 　多くの地域住民の思いや豊かな経験と知恵を最大限に引き出すことができる人材の確保と育成に取り組み、地域における幅広い年齢層での合意形成を促し、地域課題の解決を図るとともに、NPO 法人や市民団体等の自主的な活動による地域の特性を活かしたまちづくりを進める。 　また、地域住民とともに地域をつなぐ公共交通の確保や検討を進める。	 ②−ア　省略 ②−イ．多くの市民が自主的にまちづくりを進める環境をつくる 　多くの地域住民の思いや豊かな経験と知恵を最大限に引き出すことができる人材の確保と育成に取り組み、地域における幅広い年齢層での合意形成を促し、地域課題の解決を図るとともに、NPO 法人や市民団体等の自主的な活動による地域の特性を活かしたまちづくりを進める。